

工業部会通信

(発行) かながわ経済新聞合同会社
 〒252-0239 相模原市中央区中央3-12-3
 商工会館本館1階
 ※プリントしてご自由にお読みください。

かながわ経済新聞
KANAKEI

近未来技術研究会 2年ぶり、総会リアル開催

第1回例会も同時開催 「脱炭素」テーマに講演会

近未来技術研究会(吉田英訓会長)は、ロジスティクス代表取締役社長は6月29日、中国名菜敦煌で「第23回通常総会」と「2022年度第1回例会」を開催した。リアル開催は2年ぶり。当日は会員28人が参加した。総会では21年度活動報告・収支決算、22年度役員体制・事業計画・収支



挨拶する吉田会長



講演する進藤氏

吉田会長は「私が会長に就任して以降、初めて総会を会場で開催できうれしく思います。引き続き感染症対策には配慮しつつ、会員同士の交流できる機会を作ればと考えています。今年度も会員

企業が経営環境の大きな変化を乗り越え、新しいチャンスをつかむ助けになる例会を開催して参ります」とあいさつしていた。第1回例会では「脱炭素・カーボンニュートラル」をテーマに、産業評論家の進藤勇治氏を講師に招き講演会を開催した。進藤氏は「脱炭素・カーボンニュートラル」について、日本の成長戦略をはじめ、中小製造業への影響と対応策、成長産業と近未来技術などについて解説した。

参加者からは「脱炭素・カーボンニュートラル」の最新状況を把握できた。今後の自社の取り組みに参考になる内容だった」との感想が寄せられた。

「卸売」で、仕入れ数量の確保と価格高騰の両面で「影響を受けている」とする企業の比率が高くなっている。一方、ロシア・ウクライナ情勢の影響を受け、実施している対策についても聞いた。それによると、「原材料や商品価格上昇分の販売価格への転嫁」が47.9%でトップ。次いで、「調達先の変更(国内)」(21.9%)、「数量確保できない分の価格の上乗せ」(18.9%)となっていた。(かながわ経済新聞)

町工場のSNS活用は？ コバヤシ精密の事例解説



工業部会は6月30日、市立産業会館でのリアルと、オンラインを併用した経営支援セミナーを開催。「1・5万人のフォロワーを持つ町工場が話す、SNSを活用した企業戦略とは？」SNSを活用することで広がるビジネスチャンスと題し、コバヤシ精密工業(南区大野台)の小林昌純社長(写真)と、同社の広報・PR担当の三宅氏が講師を務めた。

工業副部長 コラム 経営者と「趣味」



今回は、経営者と「趣味」についてお伝えします。これまでの私の社長経験から言いますと、経営者である以上、趣味が多彩であった方がよいと思えます。なぜなら、経営者同士の

「忙中閑有(ぼうちゆうかんあり)」という言葉はよく聞かれます。多忙を極める中にもわずかな暇はあるものだ、という意味合いです。仕事に没頭する中でも趣味に時間を費やすことは人脈作りにも役立ちます。私の場合、昔から飛行機が好きでした。以前、取引先の大企業の資料担当者と同じ飛行機好きな人がいて、互いに時間を忘れて話に夢中にな

ました。そのほか、私は演劇や相撲、落語、講談、浪曲、美術館なども好きです。趣味の幅を広げれば、人生が豊かになり、人脈は必ず広がります。よく「趣味のために生きていく」と、仕事も中途半端にするサラリーマンの人もいますが、経営者は違います。限られた時間で趣味を楽しむからこそ、有意義になり、趣味での経験が仕事にも生きてくるのです。趣味も大いに楽しんでください。(公認心理師・松岡康彦)

人生の幅豊かに、人脈も広がる

なぜなら、経営者同士の

業戦略とは？ SNSを活用することで広がるビジネスチャンスと題し、コバヤシ精密工業(南区大野台)の小林昌純社長(写真)と、同社の広報・PR担当の三宅氏が講師を務めた。



さあ、5年後の未来を見に行こう。

新規会員募集中 近未来技術研究会

相模原商工会議所工業部会